

事業所自己評価シート

職員による自己評価

A 環境面

・他事業所との共有スペース（ホール、プールなど）を活用し空間確保に努めている。

B 児童への支援内容

・短期、長期のそれぞれの目標を定め、保護者との確認を行ったうえで、日々の活動の中で意識ながら支援を行っている。
・日々の支援に関し、その日のうちに記録をとることを徹底している。

C 関係機関との連携

・学校、移動支援事業者との連携を図り、個別支援会議にも積極的に参加している。
・区内の放課後等デイサービス事業者と定期的に情報交換会を行っている。
・区内の福祉施設と連携し、子どもたちを地域社会に受け入れるよう努めている。

D 保護者への説明責任・信頼関係

・保護者参加の合宿、イベントを企画するほか学習会など交流の場を意識的に設定している。
・保護者からの相談窓口も門戸を開けている。

E 非常対応

・防災への取り組みを行っている。
ヒヤリハット、事故への対応は迅速に行い、職員の月例会では必ず報告し、それぞれの課題、問題につき意見交換を行っている。

保護者による評価

A 環境面

・活動スペース、職員数はおおむね整っている。
車道に面している玄関付近に安全対策が必要。

B 児童への支援内容

・保護者、子どものニーズ、課題を的確にとらえ支援計画に反映している。
・計画的に取り組まれていると思うが、内容が把握できておらず、活動予定表等があると助かる。
・学童との交流をもっと増やして欲しい。

C 事業所からの情報発信

通信が定期的に発行されているが、手にする時期がまちまちだ。
・保護者会を開催してほしい。
・本人（子ども）が直接話せないで、少しでも良いからノートにその日の活動内容を記してほしい。

D 非常対応

・非常時対応マニュアルについての説明が欲しい。
・どのような避難訓練なのか分からない。

事業所内での分析

【共通点】

・子どもたちへの支援についてはそれぞれの課題にあったプログラムを実施している。個別支援計画の遂行にも積極的に参加している。
・学校、家庭、関係機関との連携も良く取れている。

【相違点】

・家庭との連絡、家庭間の交流への取り組み。
・非常対応の取り組みと対応。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・個々の子どもの課題に合致した支援方針を定め、保護者との面談で確認し、支援計画を策定、実行している。定期的にケース会を実施、日々の活動の振り返りを当日又は翌日にし、支援方針のずれがないか確認している。
- ・プール、ホール等の使用に際しては法人内の他事業所の施設を有効に活用している。自立支援協議会を通し地域の福祉施設と連携し、豊かな活動、体験を重ねている。
- ・法人内の学童クラブの子ども達とも「なかまの杜コンサート」「慰問コンサート」を通して触れ合う機会を設けている。

事業所の改善点

- ・保護者との情報伝達を遅滞なく行い、その精度を高めること。活動内容、イベント情報、連れてくる場所、お迎え場所の確認、緊急時の対応など。
- ・非常時マニュアルが実際に機能するようにマニュアルの説明を丁寧に行うほか、保護者も加わった避難訓練を行う。

事業所の改善への取り組み

- ・事故やケガの発生時には、保護者への連絡を必ず行うこととした。
- ・連絡ミス、忘れ物がないように職員間で情報の共有を図った。

自己評価を行っての事業所としての感想

正しく丁寧に情報を伝えることの難しさを昨年に続き痛感する。まず職員が情報を正しく理解しないといけませんが、組織が大きくなる中で職員間での情報共有が課題となっている。「伝えたはず」「わかったはず」と思っていると、全員に伝えきれていなかったり、不正確であったりすることがしばしばあった。保護者への丁寧な情報伝達を行うためにも職員への情報伝達、情報共有を丹念に行うことが必要だと改めて感じた。

事業所名 つむぎ子ども教室

担当者 官林 祐治